



待合から申請カウンター方向をみるイメージパース。

府民にとってパスポートセンターは待たされる場所です。そこで過ごす時間を居心地の良いものにするため、木の手触りや香りを活かした「木の庭」をつくることを提案します。蓮の葉のような柔らかい曲線のベンチに座り、庭を眺めて過ごすように、木に囲まれた心落ち着く空間で待ち時間を過ごすことができるようにします。また、申請カウンターの幕板部分には大阪府内産の様々な樹種の板を張ることで府民が大阪の森林の豊かさを知るきっかけをつくります。





記入台方向をみるイメージパース。

建築家・黒川紀章が設計した既存施設の特徴を活かす木質化を図ります。特徴的な12角形の記入台は形状を踏襲して木質化し、照明器具を木の輪にLEDを仕込んだものに更新する他、柱や天井照明に施された曲線を什器にも展開し既存空間と調和させます。また、大中小3種類のベンチを適材適所に配置し、木質化と同時に子連れや大きな荷物を持った人など誰もが利用しやすい施設へリニューアルします。





受取カウンターの待合をみるイメージパース。

ベンチは平面的にも断面的にも柔らかな曲線を用いることで、人の身体に優しく馴染む形状とします。また、持ち運びが容易でスタッキングも出来るため、その時々での社会情勢に応じた自由なレイアウトが可能です。コロナ禍における三密の回避やアフターコロナでの座席数の増加などに柔軟に対応できます。また座面を圧密木材、脚を鋼製にすることで耐久性を向上させ、利用者が長く安心安全に使えるベンチとします。